（十一日夕刊）

休刊　大祭日第一、第三日曜

定價　一ケ月二十錢　郵税十五錢

廣告料　壹行六十錢指定廿錢增

福島縣平町田町十六番地
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

現代童謠詩壇の傾向

立正大學　加藤輝雄

二

論旨を進める前に、今まで行はれて來た童謠詩壇の傾向について述べる必要がある。

童謠詩人と言へば誰しも想ひ起すのは、北原白秋、西條八十、野口雨情、島木赤彦、の四氏であらう。

事實この四氏は、本當に今日の童謠をもたらした詩人であつて、これ等の人のして來た仕事は、日本文化の上に多大な貢献をもたらした意味で吾々の恩人とも言ふべく、深く感謝していゝと思ふ。

だが、この四氏のしてきた仕事にはそれぞれ多少の相違がある、西條八十、野口雨情の兩氏は、啓蒙的な仕事にはあゞかつて力があつた。しかし、眞の藝術的な立場から見て、この兩氏は非常に根底が稀薄である爲に、その仕事は大きな價値をもつてゐないと言へることである。西條、野口の兩氏は遺憾乍ら、この獨自性（もちあぢ）を欠いてゐる。

一般の人達にひろく唄はれた點から言へば、西條八十、野口雨情の兩氏はまづ第一人者であらう、だが、必しもひろく唄はれることは、その作品を價値づけるものではないのである、藝術として最も尊ひことは、その人でなければならぬといふ、所謂もちあぢのあることである。

あの位のセンチメンタリテは誰しも行きうるところで必ずしも西條氏、野口氏を必要としないのである。兩氏が世人からはもてはやさるるにもかかはらず童謠詩壇からかへりみられないのは、さうした理由に依るのである。

現在までに、最も大きな仕事をしてきた童謠詩人は何と言つても、北原白秋、島木赤彦の二氏であらう。

これが偶然、童謠詩壇に二派を造る結果となつたのである。そして、その延長が今日の童謠詩壇の中心傾向むこと頗る大であつた。

大正九年を前後として生れた、兒童藝術雜誌『童話』及び『赤い鳥』が、今日の童謠を生んだ母体であることは既に周知のことで異論のないことと思ふ、而して、北原白秋氏は『赤い鳥』に、島木赤彦氏は『童話』によられ、おの〳〵その創作童謠は、さうした理由に依るのを掲げて、後輩を敎へ育く

短歌　秋光集

神奈川　市川健次

かつちりと鍬うちこめば手ごたへあり出てくるまい蕗いくつもある

泥いもにふれてまたとる鍬の柄にぽてぽてと土ついてしまへる

鍬の土にとす竹べらの音すみて秋晴れの空いよよふかしも

蕗堀りやすみ鍬の刃の土ねもごろに落せば映る朝ぞらのあをさ

蕗の出來をひたほめたまふわが母のはれがれしさよ久しぶりなる

秋の水となりてゐにけり蕗堀りてよごれ足をわが洗ひつつ

野良しごとたくれがちにしてすぎて來ぬ稗にほき稲田けふは刈りつる

百舌のこえみ空にひびき高はらは見るめさむけく草もみぢせる（仙石原）

草紅葉あかるむみれば高原の霧ははれつつ郭公のこゑ

ゆさりゆつさり笹やぶゆれて十五夜の大きな月がいまのぼりをり

むすぶ實もちいさくなりて秋茄子の花の紫濃くなりにけり

拈華微笑

◇豐葦原の瑞穗の國に生れ來て餅がうんと食へる今度の正月

◇それは俸給取り　米一升卅五錢。

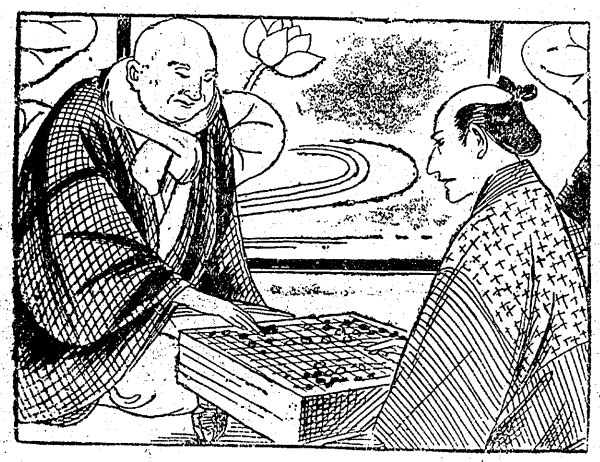
◇火の車の會社に手を燒く平税務　署直税課

◇四倉でも救濟袋　善事の模倣は氣障でない

◇……○

などの話。百姓丈は悲慘だ

魂消ちやいけない平近くの實話



ラヂオ番組

十二日（金曜）

東京　JOAK

△午前七時ラヂオ體操（大阪より中繼）

△九時氣象通報

△九時十分日用品値段（料理献立（ほうれんそうの玉子燒）宇多繁野發表）

△十時三十分講演（明るい生きた聲）

△正午時報

△午後〇時五分琵琶（熊本より中繼）加藤清正、田村迪都

△〇時四十分ニュース、放送局編輯、東京毎夕新聞社、警視廳

△二時婦人講座（敎育の上に見る徒勞と冗費）市川源三

△三時四十分氣象通報

△四時ニュース、放送局編輯

△五時四十分職業紹介事項

△六時（子供の時間）童話劇（大阪より中繼）ジャンバルジャン、テキスト九べージ、白鳥座

△六時三十分英語講座、初等科三二、岡倉由三郎

△七時ニュース、官着公示事項、放送局編輯、東京朝日新聞社

△七時二十五分（發明奬勵の御聖旨を拜して）商工大臣俵孫一

△八時音曲噺、柳家つばめ

△八時三十分哥澤（一、わがもの　二、わし國　唄哥澤芝加〆松、三味線哥澤芝壽春

△八時五十分浪花節（菅谷半之丞）木村重友

△九時四十分時報、ニュース、放送局編輯、氣象通報

△午前九時十分料理献立

仙臺　JOHK

△六時（子供の時間）童話劇（大阪より中繼）ジャンバルジャン、テキスト九べージ、白鳥座

△七時ニュース

△八時五十分哥澤（一、わがもの　二、わし國　唄哥澤芝加〆松、三味線哥澤芝壽春

△九時四十分時報、ニュース、放送局編輯、氣象通報

△午前九時十分料理献立

仙臺　JOHK

△八時音曲噺、柳家つばめ

△八時三十分哥澤（一、わがもの　二、わし國　唄哥澤芝加〆松、三味線哥澤芝壽春

△八時五十分浪花節（菅谷半之丞）木村重友

△九時四十分時報、ニュース、放送局編輯、氣象通報

△午前九時十分料理献立

赤鞘安兵衛

講談

東京　桃川燕二演

村田月光書

（一二四）

『彌兵衛居るか』……『これはハア御城中の大石様が、こんな穢いところだが上つて下さい』……『許せ』上り込んで話を始めたところが彌兵衛却々話せる彌兵衛の方も變つた人物だが、治郎太夫も變つてゐる、變つた白石は強い方で持つものだ同志で話しが合ふ『大石様拙者と和尚と合ごだから和尚が先番で黑を持つた、貴方へ來るが何處へ行かつしやる』……『養源寺様が白を取つてどうする』……『どうするたつて彌兵衛は人にへつらふことが嫌ひだ、無理に弱いと見せるは面白いでせう』……『彌兵衛貴様は打てんか』……『さうさね白石と黑石の見ると却々打てるな』……『却々なんては打てないが和尚様は強い様だが、一番行かう』いきなり彌兵衛は白石を取つた——『これ〳〵誰だつでもあるまい』……『ホウ』……『ハア兵打ちかね夫』……『彌兵衛貴様は打てんか』……『さうさね白石と黑石の見ると却々打てるな』……『却々なんては打てないが和尚

（小田巻蒸）鈴木貞子發表

日用品値段（野菜るい）

△午後四時ニュース

△五時四十五分今晩の番組

豫告

△七時ニュース

△八時喜多流、謠曲、經政シテ柴田政太郎、ワキ東海林文之助、地唄柴田幾藏、地小山田芳雄、地柴田長藏

よりは強い』……『これは面白いぞ、それ程ならば白石白いぞ、是れからご敵が一人ふ黑石の見分けが付く位だ杯えた』治郎太夫は喜んだ、此後來る度毎に彌兵衛を連れ出す、三人寄つてはごを打つ、ご敵はにくさもにくしいとたしいとか申して、云へないが見たから遠慮のごは公際を深くする仲だちないところを云つたのだ』となるもので、治郎太夫彌……『イヤどうも愈々面白サア殆めるが好い』和尚も彌兵衛無禮だとは思つた、仕方がない、黑石を持つて打始めたが、成程彌兵衛の云つたのはうそではなかつた、せつかちだからバチリツ、〳〵チリツと石をぶつ突ける様にテキバキ打つが

彌兵衛やるな、面白い〳〵、是れからご敵が一人ふ黑石の見分けが付く位だ杯えた』治郎太夫は喜んだ、此後來る度毎に彌兵衛を連れ出す、三人寄つてはごを打つ、ご敵はにくさもにくしいとたしいとか申して、云へないが見たから遠慮のごは公際を深くする仲だちないところを云つたのだ』となるもので、治郎太夫彌……『イヤどうも愈々面白兵衛は妙なことから無二の サア殆めるが好い』和尚懇親を結んだ段々彌兵衛の も彌兵衛無禮だとは思つた様子を見ると學問をしたら が仕方がない、黑石を持つしいもくこうのくわんむ て打始めたが、成程彌兵衛りしたものだ抔と冷評の點 の云つたのはうそではなか は學問なくては出來ぬ業又 つた、せつかちだからバチごなぞと云ふ優美なたしな リツ、〳〵チリツと石をぶつみもある、百姓で置くはた 突ける様にテキバキ打つが しいものと治郎太夫考へた 或時——『彌兵衛貴様は滿 更の百姓とも思へんが、先 祖はよしあるものであらう 差支なくば話さぬか』……『俺の先祖かね、先祖は近 江佐々木祥貞の家來だつた が、織田信長に滅ぼされた 後流れ〳〵て此常陸の國に 來て落着いたので、系圖も チャンとございます』……『ア、然うであらう滿更の 百姓ではないと踏んだが其 通りだつた、しかしどうだ 百姓で一代終る氣か武家奉 公する氣はないか』……『ハア實は最う武家奉公をした い、兩刀を手挾んで先祖の 苗字を興したいと疾うから 思つて、内々其心掛けもし てゐるのでございます』！ 『如何にも、武家になる心 掛けがあつた様にも思はれ た淺野家に仕えても好いと 考へたら拙者が一ッ殿様に 推擧してやらう、是程懇意 になつたも何かの因縁だ、 我君に仕える所存はないか ！』……『まことに有難い仰せ、何分ともお取持を願ひたう存じます』

ゆでる世話なしスグお汁に入れて煮て喰られる——

横着うどん　一把　八錢

自慢うどん　一把　四錢　五錢

平町土橋　福麥マルマン商店　電話四八九番

度量衡計量器

吸入用酸素

酸素吸入器

關内藥局　電話四〇番

十二月十三日ヨリ十九日マデ

最新柄を豐富に取揃へて　江戸褄・丸帶・御紋付・袴

御婚禮用品特賣

江戸褄下着丸帶仕立上り　松五十五圓・竹八十圓・梅百二十圓

七五三祝着特賣

尺三丸帶・錦紗友禪・富士絹友仙・モスリン友仙各種

三井の超特價品

着尺モス新柄　二圓五十錢

友仙モス上生地一丈物　七十五錢

新モス友仙半反　三十五錢

甲斐羽裏絹一圓五十錢

レイヨン羽裏　五十錢

白時ネール一丈物　五十錢

新柄ネール一丈物　八十錢

三井の特製足袋壹萬足限り

白キラコ一足　十錢

絹　天一足　十五錢

黑　朱子一足　二十錢

平町　三井呉服店　電話三八番二八四番

内科、小兒科

花柳病科

入院應需

藤沼醫院

平町紺屋町　電話平園五〇七番

良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント特約代理店

金物問屋　和洋銅物

久釜屋商店

磐城國平町五丁目　電話九番　九九番

振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり

特賣!!!

福島縣清酒品評會一等賞受領

たひら正宗

花春　同優等賞受領

醤油釀造元

鹽屋

山崎合名會社

電話一〇番

生花教授

池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町四丁目和泉屋旅館

須藤まつの

任擔師醫科眼專門

無料檢眼

無料檢眼券御利用下さい

TOKIWAYA

信用アリ　正確味萬點ノ時計

御客樣本位ノ眼鏡部

平壹　常盤屋時計店　電三三九

平町田町

高久病院

電話五一三番

醫學士高久忠清

新潟醫學士羽久

藥劑士赤佐

竹羽

菊雄

内科

外科

小兒科

花柳病科

耳鼻咽喉科

レントゲン科

ヨウモーダン！

斷然三〇年型だナ

ドコの新調だい

コレハレイの

ソレ正札堂さ

品は豐富で撰見取り取り

時代をリードするこゝスタイル

鼻耳咽喉科專門

日本醫大院長醫學士　鈴木正男

齒科口腔外科

日本齒科科長醫學士　鈴木喜政

下谷區入谷町二九一

入谷改正通り東交番前

鈴木醫院

貸地

小名濱商事株式會社

平出張所　六〇三番

電話五四一番

寧ろ凄い廣告白兵戰

廉賣戰線異狀あり！

とげくしい街頭亂舞の中に年の瀬は目前に迫る

吹き荒る財界不況の突風裡といふ有樣、このまゝで行は平年作であるが一般低落に遠慮も容赦もなく年の瀬くならば全く商賣は上つたの諸物價に押され氣味で前がせまつて來る正月も早やりで殺人的廉賣でもはじめ年から見るとズット安く大あますところ僅に二旬平町なくては滿足に年の瀬を越に於ける師走の大賣出し準せそうにもない、惱みの多備も一丁目から五丁目の大い年の暮れではあるが通りを中心として各町目拔去年に比較してみれば物きの商店街では一九三〇年價は總体して二割五分から棹尾の總決算をしやうとし三割位の安値であつて輸入てゐる、策戰は何か……例品でも一割五分から二割安の投賣、又投賣の廉賣戰に といふ所を浮動してゐる十各商店とも秘策をねつて歳二月に入つてからめつきり暮の景氣をいやが上にも煽需要の多くなる食量品や羽らうと心をくだいてゐるが子板破魔弓などに就て平町さて今年の不景氣である物の市價を紹介しやう價は下る一方に買手がない

贈答用の食料品はどれも之れも下落

平町の現在諸物價調べ

贈答品では雜貨品二割安平うが一般物價の安値にお均、食料品は往々三割近もされてそう高價は張れま下つてゐるのがある贈答品い、それから數の子である として多く賣れる罐詰などが原産地では今年の大漁で も 手持ち品も多く二等檢で一

味の素小罐一圓四十錢特賣目二圓五十錢小賣百目三小八十錢小瓶二十八錢 十錢どころ、昨年より三割海苔味付六十錢 燒七十安を示してゐるが平町では錢 松茸四十五錢 なめ下等一貫目一圓五十錢（百こ七十錢 味淋漬四十三目十六錢）中等二圓二十錢錢（山崎合名會社現在賣（百目二十五錢）上等三圓二價）十錢（百目三十五錢）で昨年

と云ふ樣な調子で大体一割と大差なく之れも今後はい乃至一割五分方廉くなつつて來るだらうが目下の處ある、次に之亦贈答品としは品薄であるするめも同樣て需要の多い新巻はまだ現北の方では上物小賣一バ六はれてゐない樣だが中旬に十五錢から七十錢どころで入つてから入荷するものとあるが運賃やその他の關係見てゐる、値は北海道方面で平町の商店では八十錢か からの移入で地元で出來ぬら上物一圓位の處である品丈けに安くも賣れぬだら

羽子板や破魔弓

一割五分下落

歳晩情景をいろどる羽子板 その仕入れもこの不景氣で 何處も多少遜れ氣味である

殆ど今迄に無く餅に惠まれる春

悲鳴的の投げ賣りで

糯米一石十八圓

お正月になくてならぬ糯米四十錢とは餘りは慘めな相はこれ又最近にない安値で場である下旬に入つても決農民の悲鳴を上げるも無理して變動はあるまいと見てではない昨今の相場は極上ゐる一般家庭から喜ばれる一石十八圓五十錢一俵七圓みかんは原産地の靜岡地方が往戻値段も昨年からみると可なり安くなつてゐる模樣で安い處では二十錢位からあり手頃な物で一圓四五十錢飛び切りは二十圓と云ふやうなのもある、總てに昨年から一割五分の安値である、尚は最近の好みとして映畫や童謠の趣好を取り入れたのが非常に流行の樣である、破魔弓も二十錢からあつて手頃なのが二圓内外之れにも二十圓といゝ飛び切りがある、之亦一割五分方の下落

産米講演會

けふ草野村で

草野村では今十一日午後一時から同村小學校で産米改良及受檢手續に關する講演會を開催した

江名中の作豐間各港縣費支辨を建議

郡選出政友派縣議から昨十日の縣會へ

地方民の熱望であり多年の出した懸案として毎年縣會に於て質問論議さ る相馬郡請戸、石城郡江名、中の作、豐間の各漁港縣費支辨港編入並に縣費補助はいまだに實現を見ざる有樣なの で十日の縣會に政友派の鈴木辰三郎、山崎吉平、古川傳一、太田秋之助、小野貞吉、郡豐太郎の六縣議から右港の縣費繼續補助を縣參事會に代決を委任し補助を交附するの緊急建議案を提

縣議案

吾が福島縣海岸漁村に於ては相馬郡請戸、石城郡豐間、中ノ作、江名の如き漁村經營上一日も閑却不可能のため連年に亘り縣に補助申請有之殊に石城郡豐間中ノ作の如きは昭和六年度より自費決算迄有之故縣は是等漁村に對し參事會の代決を以て相當繼續補助相成度

百五十餘會社中三分一は火の車

所定の報告も無く

手を燒く平税務署

石城郡に於ける合資、合名株式、株式合資組織の會社は目下百五十有餘を算するが現下の不況に何れも可成の不振をまぬかれず中には殆んど倒産に瀕し辛じて經營しつゝあるのが少なからず内五十六會社の如きは決算期となるも決算報告は愚か定期總會すらも召集せぬのがあり甚だしきに至つては前後三年間一度の損益計算發表、利益金分配を行はぬものもあり平税務署ではこれ等の等もあり平税務署でもほとゝど手を燒いてゐるが嚴格に法規を適用すれば五十六會社は何れも會社法違反で罰せらるものでこれらは大正七八年の好況時雨後の竹の子の樣に濫設立されたものや負債整理の爲法人組織に改めたものであると

磐炭試掘許可

磐城次（三）は去る十月七日午前十時頃神谷村字鹽地先街道を四倉町自動車運轉手鈴木信に於て通行中の草野村佐藤濟委員花澤賢有氏等の合同が現下の不況に何れも可成の不振をまぬかれず中に逆反で罰せらるものでこれらは大正七八年の好況時雨後の竹の子の樣に濫設立されたものや負債整理の爲法人組織に改めたものであると

不服の運轉手が正式裁判を仰ぐ

過失傷害事件で檢事の實地檢証

四倉町役場人事相談所縣共出身陸大卒）は今回の異動で參謀本部附勤務に榮轉した

四倉通信

合同計劃で貧民救濟

袋五百枚配付

四倉町役場人事相談所縣共出身陸大卒）は今回の異動で參謀本部附勤務に榮轉した

醉て暴れる

神谷村大字鎌田居住前科四犯小林長松（四三）は九日午後八時

米一升卅五錢也

元締に搾らるる

師走の炭燒き衰話

入遠野村字折松折笠美喜之助外三名は相馬郡の黑田菜を元締とし先頃から郡内某山中で炭燒きに從事中のもの で ある當事者間の契約に基く燒き歩（手數料）は俵及縄等の材料を人夫持ちとし丸俵一俵三十錢割俵二十八錢で其後一俵に付各々二十錢宛値下げの協定をなしの で月二百俵見當の收入としても五十圓をこゝに過ぎずこれはり材料代を差引くと三十圓内外となつてし まひ一家數口を率ゆる生計費としては極めて貧弱なもの である處へ元締より供給のである處へ輸に見て一圓となり働くときは吉日となるべし▲三黒の人 渾身の精力を注ぐときは午後は事なるべし▲四綠の人 出費を省き口舌をつつしみ萬事の内輪にすべし▲五黄の人 心に油斷なければ邪魔もつけいる道なし▲六白の人 成就すること希望以上に達する幸福日たり▲七赤の人 壯んなるも老たるも皆すんでことに當りて吉▲八白の人 思ひがけなき手違ひを生ずる日口舌も注意▲九紫人 たてし目標に向ひ一直線にすすめば大發展す

道路案纏る

好間村役場に會合協議の

好間村大字中好間地内字田中より上野原平町上水道淨水池に至る地區の村道改修は平町と好間村との間に交のである當事者間の契約に定めになつてゐる事が最近 ル中の處九日兩者の關係者が好間村役場に會合協議の 結果延長二百三十七間を現在九尺の幅員を十二尺とすること、好間江の橋架替之れに要する土地は全部好間村に於いて無償寄附とし工事は明十二日着手同工事も全部好間村の負擔平町に於いては道路改修費二百七十六圓二十一錢合計三百五十六圓二十一錢を負擔すること、工事は明十二日着手同二十五日までに竣工せしめる事に協議一決した

十三日例會

今月の十三日例會は當日午後七時から平町四丁目マルトモビル樓上に於て開催するが講演者は『輸血療法に就て、醫學士松永憲一氏『南米ブラジルの近況』岡部吉次郎氏である

溺兒を救ふ

隱德の二人を近く平署で表彰

平町大町木田四郎（四二）同水散運轉助手加藤武男（十一）の兩名は去月十二日午前十時頃豪雨の爲新川氾濫の折南町小林正雄（五）が河中に轉落溺死せんとしたのを救助した事最近平署の耳に入り近く表彰される由

不服の運轉手が正式裁判を仰ぐ

過失傷害事件で檢事の實地檢証

四倉町自動車運轉手鈴木信に於て通行中の草野村佐藤濟委員花澤賢有氏等の合同が現下の不況に何れも可成の不振をまぬかれず中に逆反で罰せらるものでこれらは大正七八年の好況時雨後の竹の子の樣に濫設立されたものや負債整理の爲法人組織に改めたものであると

磐炭試掘許可

磐城次（三）は去る十月七日午前十時頃神谷村字鹽地先街道を四倉町自動車運轉手鈴木信に於て通行中の草野村佐藤濟委員花澤賢有氏等の合同が現下の不況に何れも可成の不振をまぬかれず中に逆反で罰せらるものでこれらは大正七八年の好況時雨後の竹の子の樣に濫設立されたものや負債整理の爲法人組織に改めたものであると

投書歡迎　槍

ボヘミアン僕

『戀をするのが嬉しいか！ 悲しいか妾には良くわからないわ、デモ妾の樣に心の弱い者は男心の頼りなさを知つてゐる癖に、遂ひきづられてしまふのよ』とホヽ

が生命の僕は再ひ平町の夜の酒場でかの女を發見したのです、僕も變つて居りました、かの女も變つて居りました、幾廻りか前の純情さは見られませんでした、之れが戀人同志なら感慨無量で泣く處でせうが、不幸か幸か僕とかの女は戀人ではありませんでした、路傍の人に過ぎない二人で良かつたのでした、でも詩人的氣分を持つボヘミヤ の僕には何時かの夜の先の言葉が想ひ出されるのです

（平町感傷生投）

記者より、今後本欄へ此の種獨りよがりの投書お斷はり

お足許御注意

これは今に始まつたことではないかも知れないが偶然僕も被害者の一人となつたので一部その樣な惡趣味を持つ御仁に反省を促し度いと思つて斯く投槍欄を借用する

◇

先達の日曜、久しぶりに ゆつくりと明るい浴槽にひが知れた』であらうか、そしてそれが間違つて行つたのであれば仕方がない、何れ取りかへに來るだらうが間違ひたものにして代りの

て歸る段になつたらその新調の足駄が見えない、はて置場所を違ひたかなと丹念に探したがついに見當らず、 已むなく錢湯屋の齒のかけた古下駄を借用に及んで歸つた

高が一圓五十錢か二圓の足駄一足とは云ふものゝこの不景氣時代に一介のサラリーマンに取つて何が『高 後止して貰ひ度い、敢て被害者の一人として苦言を呈し反省を促す次第

（一被害生）

新らしい少くとも間違へるらしい足駄が變つてなければならない筈だ、それがなに探すに

◇

何處の御仁か知らないがそんな惡癖は一般に取つて甚だ有害なものである、癖でなければそれは惡い習慣だ、或は惡い趣味だ、何れにしたつて感心しない、爾後止して貰ひ度い、敢て被害者の一人として苦言を呈し反省を促す次第

（一被害生）

醉て暴れる

神谷村大字鎌田居住前科四犯小林長松（四三）は九日午後八時

合同計劃で貧民救濟

袋五百枚配付

四倉町役場人事相談所縣共出身陸大卒）は今回の異動で參謀本部附勤務に榮轉した

出陳入賞

小名濱の水工展へ

四倉水産實踐商業學校では去六七日の兩日小名濱町縣水産試驗場に於て開催された水産工業展覽會に生徒の作品五十二種百三十二點を出品したが左記の如く好成績動多き日なる故に注意す

▲一白の人 運氣定まらず何か食べさして下さいよ』

『今ないこと？』

『少し派手ちゃ ないかい』

『何を』

『だって、小光ンですッてね』

『チキン、ライスさんや長松さん がいゝわ』

『ふん』

『チキン、ライスさんやとおそろひよ、 あたし、じみだと思ふ だけど！』

『派手だよ』

『これ、安いの？』

『いゝえ、まだよ、三十二圓だけど、まだ拂ひですの、つれて が少し殘つてゐツて下さらい』

△

『ね、あんた、 この柄、似合は るの』

『だッて、小光ンですッてね』

『ね、あたいに き書くの如し

△

『ね、あたいに

瓦井

赤

作品

生徒

平館

度の

表彰

第十五聯隊（高崎）附陸軍歩兵中尉若松七郎氏（湯本町出身陸大卒）は今回の異動で參謀本部附勤務に榮轉した

若松中尉榮轉

歩兵

績を以て出品點數の約五割べし▲二黒の人 一家一團が入賞した

受賞者一等六名、二等一六名、三等二七名、計四九名

最初の秋市

四倉町

最初の

十四日から開始 秋市は

來る十四より三日間で目下夫々準備中である尚今年は仲町を中心として興行物は本町の裏通りに設備する筈であると

醉て暴れる

神谷村大字鎌田居住前科四犯小林長松（四三）は九日午後八時

出品

作品

出品したが左記の如く好成績動多き日なる故に注意す

▲一白の人 運氣定まらず何か食べさして下さいよ』

『今ないこと？』

『少し派手ちゃ ないかい』

『何を』

『だって、小光ンですッてね』

『チキン、ライスさんや長松さん がいゝわ』

『ふん』

『チキン、ライスが駄目なら、 たゞの御飯でいゝわ、あたい、 ソースをかけて 食べるから』

『？……』

以上平町藝妓の内しよばなし三重奏のぬすみき書くの如し

靈柩自動車の御用達
花環造花
葬具一式
値下
平新川町
橋本屋葬儀店
電話一六三

緊縮時代
質實本位
薄利多賣
精撰食料
吟味調理
多品販賣
經費節約
尖端宴會
園
會
半園會
三品銚子付供
五品銚子付供

ホール建設一週年記念
出前……惣菜部開設
カレーライス 一〇
ハヤシライス 一〇
チキンライス 一五
コロッケ 一〇
魚フライ 一〇
カツレツ 一五
丸昇軒食堂
電話四三九

本日全部狂言替リ
1 劇 喜男半打二バ
2 尾上菊五郎丈之振付 歌舞技十八番之内御目見得ニ 大ダンマリ一バ
3 社會劇 越後獅子二バ
4 大レビュー八景
5 喜劇 心之脱線二バ
6 松本幸四郎丈之指導劇 尾上菊五郎 取千 兩 猪名川 中 野 販 おとわ 綴ケ嶽 同 同 弘子 綾子 艶子
後援 平町各新聞販賣店 同一
毎日午後五時
聚樂館
愈各狂言出揃見落何レ

夜診
胃腸
内科
十二指腸病
専門
内科部
極毒
淋病
皮膚病
婦人病
専門
外科部
松村醫科院
胃腸性病
（平南町電話一〇七番）
療間

迂生儀一昨年八月以來東京朝日新聞平通信部主任として在職中は公私内外多大の御推挽を辱ふし夙夜感謝罷在候處今回遽に家事都合により退社歸鄉致す事と相成り候に就いては一々拜趨御挨拶可申述筈 處行李匆忙の折柄欠禮の向測り難く乍失禮以紙上右申述候

敬具

十二月九日

平町古鍛治町

淺野惠四郎